

関東地方会会報

No.40

2026年2月28日発行

会長挨拶

日本小児歯科学会関東地方会
第20代会長 浜野 美幸



会員の皆様におかれましては、日頃より関東地方会の活動に深いご理解と温かいご協力をいただき、心より御礼申し上げます。また、大会当日の運営に際しましては、大学の先生方をはじめ、多くの関係者の皆様に多大なご尽力をいただきましたこと、改めて深く感謝いたします。

本年度は、関東地方会が創立40周年という大きな節目の年でもありました。船堀にて開催いたしました第40回大会には、800名を超える多くの皆様にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。記念祝賀会では、各大学の先生方にご協力いただき、スライドを用いた医局紹介を行っていただきました。大学

ごとの特色や雰囲気が伝わる温かい内容で、会を一層盛り上げていただきましてありがとうございました。

この40周年という節目に、関東地方会の歩みを振り返るなかで、本会が長きにわたり小児保健を重視し、理念が脈々と受け継がれてきたことを改めて実感しました。他団体と連携しながらセミナーやシンポジウムを積極的に開催してきたことも、本会の大きな特徴と考えております。本年3月をもって会長職を終えることとなりますが、今後も「子どもたちの健康のために尽くす」という思いを胸に、関東地方会の活動に関わっていきたくと考えております。

今期は特に、会員の皆様から寄せられる声を大切にし、それを事業活動に反映させることを目標としてまいりました。9大学の教授の先生方との懇談会や、関東地方会独自の事業であるモニター会議では、各大学・各地域を代表する先生方が事前に意見をまとめてくださり、非常に充実した意見交換の場となっています。また、この2年間で大会抄録集のPDF化や事前登録のキャッシュレス化を進めることができました。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。大会ホームページを充実させ、抄録をPDF化したことで、関東地方会会員の皆様への情報提供がより円滑となり、関東以外からの参加者も増え、大会全体の活性化につながったと感じております。小児歯科医療の充実のためには、会員の先生方だけでなく、地域で診療に携わる先生方に小児歯科の大切さを知っていただくことも重要です。大会を通じて、小児歯科を学ぶ機会を身近に感じていただけるよう、今後も努めてまいります。

さらに本年度はアンケート調査を実施し、多くの貴重なご意見やご要望をお寄せいただきました。皆様の声をもとに、新たな事業にも取り組んでおります。歯科衛生士職域からの幹事増員により、事業内容や大会プログラムにも新たな広がり生まれています。歯科衛生士を対象としたセミナーも来年度早々に開催を予定しておりますので、ぜひ多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

今年度は、他団体との協働による公益事業にも継続して取り組むことができました。東京小児科医会との

共催による「じょうぶな体とじょうぶな歯のセミナー」は、第5回を迎えることができました。小児歯科は幅広い領域を担っていますが、小児科の先生方との交流を通じて、歯科の枠を超え、子どもを取り巻く課題を多角的に考える貴重な機会となっています。今後も、学び合いの場として大切にしていきたい事業です。また、ジョイント3では、口腔衛生関東地方研究会、日本障害者歯科学会、日本小児歯科学会関東地方会の三者団体が連携・協働しております。他学会とのつながりを通じて、交流と活動の輪をさらに広げていきたいと考えております。

近年、子どもを取り巻く成育環境は大きく変化し、子育てに悩みや不安を抱える保護者の方々の姿も多く見られます。一方で、歯科医療の分野においても、正しい医療や学問とは異なる情報が先行してしまう場面があることを憂慮しております。子どもたちが安全で健やかに育つために、医療・保健に関する正しい情報をわかりやすく、丁寧に伝えていくことは、学会に求められる大切な役割であると考えています。今後、大会やホームページを通じて正しく有用な情報を発信できるよう取り組んでまいります。

今後とも、関東地方会への変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。子どもに関わるすべての皆様と、温かい心を共有しながら歩んでいけましたら幸いです。

日本小児歯科学会第41回関東地方会大会 および総会開催のご案内

大会メインテーマ：こどもファースト
～支え見守ろう、子ども達が夢見る未来～

日 時：令和8年10月4日（日）
場 所：館林市文化会館カルピスホール
大 会 長：富永真澄
準備委員長：熊澤海道

大会長挨拶

日本小児歯科学会会員の皆様、そして関東地方会会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、日本小児歯科学会第41回関東地方会大会および総会を担当いたします、ますみこども歯科医院の富永真澄です。2026年10月4日（日）に館林市文化会館カルピスホールにて、「こどもファースト～支え見守ろう、子ども達が夢見る未来～」を大会テーマに開催させていただきます。

歯科受診の際に、子ども達に安心して来院してもらい笑顔で通院してもらえるようにコミュニケーションを取りながら、子ども達の歯科治療への恐怖心や不安を軽減することはとても大切なことです。また、小児歯科医療ではすべての子ども達のむし歯の治療、口腔機能発達不全症や予防歯科医療など継続的かつ幅広いケアが求められるため、歯科医師や歯科衛生士だけでなく多職種との連携が重要であると考えております。そのような思いを込めまして、今回の大会テーマとさせていただきました。

大会としては、歯科医師だけでなく作業療法士、看護師などをお招きして多角的な内容を準備しております。その他にも、ランチョンセミナー、企業セミナー等も予定しており、ポスター発表には多くの会員の皆様からの申し込みをお待ちしております。

遠方での開催となりますが、会員の皆様に対し、最新の小児歯科医療の寄与ならびに情報交換、親睦の場所となればと考えております。

第41回大会も引き続き「事前登録制」として、大会ホームページから様々な情報をご覧いただけ

るようにいたします。館林市文化会館カルピスホールで多くの皆様にお会いできますことを心から楽しみにしております。

【大会内容】

基調講演（認定医セミナー） 特別講演 認定歯科衛生士研修セミナー
教育講演（公益事業講演） ランチョンセミナー 企業セミナー
ポスター展示・発表 企業展示 懇親会

日本小児歯科学会第40回関東地方会大会・総会を終えて

第40回大会大会長 藤岡 万里

2025年10月5日（日）、江戸川区「タワーホール船堀」にて、メインテーマ「子どもの健康は胎児期から始まる～小児歯科からできること～」として大会を開催いたしました。

テーマは、産科併設歯科から学んだ命の尊さと、その命を守り育てていく保護者や周囲の大人たち、そして成長していく子どもたちへの想いをこめました。大会当日は10月でも汗ばむ気候で、830名の方々にご参加いただきました。

基調講演は、船津敬弘先生「親子と育む小児歯科診療～子どもの成長に合わせた対応～」と題して、診療には保護者を巻き込んで一緒に子どもの健康増進を図る重要性を、そして本会講演は、笠井靖代先生（日本赤十字社医療センター第二産婦人科）「加速化する少子化の中での周産期医療の課題～こころもみる～」と題して、近年の育児支援からも歯科医療従事者、特に小児歯科に携わる専門職が妊産婦のこころを支える大きな役割になるとお話いただきました。

認定歯科衛生士研修セミナーは、秋山邦久先生（常磐大学人間科学部心理学科）から「令和時代の子どもの医療コミュニケーション」として、令和世代の子どもたちの文脈に合わせた医療コミュニケーションがどのような場面でも求められており、臨床現場での文脈の重要性を教えてくださいました。

臨床講演は医療連携の側面から、杉山智美先生が「子どもたちが健やかに成長するために小児歯科医ができること—小児科との連携—」として、小児科と連携をとって診療を行うことの重要性を実際の症例を通じて紹介くださり、続いて村瀬正彦先生（昭和医科大学横浜市北部病院こどもセンター）が「良

好な発育発達に向けて新生児医療が取り組んでいること」として、NICUに入院した子どもたちは退院後も発育や発達を継続的にフォローアップする重要性を、また小児科医も小児歯科医との連携を望んでいるとお話いただきました。

企業セミナーは、沢口由美子先生「歯科衛生士として子どもたちの未来を支えたい」、土岐志麻先生「むし歯・歯肉炎の予防といえばジャイオマー製品！いつ何に使う？」、石谷徳人先生「萌出障害への対応について—目先の叢生よりも、顎骨内に潜むリスクに目を向けよう—」、大久保孝一郎先生「口腔機能を育てるための患者用冊子「Tsumugu」について」を、またランチョンセミナーは、弘中祥司先生「バイオアクティブ材料を応用した小児歯科医療への新しい予防法の提案」、土岐志麻先生「実践！保険算定からみる口腔機能発達不全症の指導」、石島学先生「アライン・テクノロジーの小児矯正歯科関連製品：導入前に知っておきたい基礎知識」をご講演され、また「iTero ハンズオンセミナー：補綴・シミュレーション・CAD デザインのすべて」も開催されました。

ポスター会場では、特別企画①『こどもと保護者への指導、支援について』というテーマで、3大学（明海大学、東京科学大学、日本大学）そして開業医2名と江戸川区歯科医師会の6名がそれぞれ発表してディスカッションも行われました。特別企画②社会保険委員会企画『令和6年度社会保険診療報酬改定に関するアンケート調査』、JSPP（全国小児歯科開業医会）からの掲示発表、そして一般演題33演題、認定歯科衛生士資格申請・更新（各1名）が発表され、各所で活発な質疑応答が行われました。展示ブー

スでは32社の企業様のご協力のもと、お陰様で盛
会裏に大会を終えることができました。

大会終了後には‘記念祝賀会’を開催させていた
だき、来賓の埴佳生先生（東京小児科医会会長）、
根本秀樹先生（江戸川区歯科医師会会長）、大金伸子
先生（東京都歯科衛生士会副会長）と講師の先生方
をお招きして、関東9歯科大学の医局紹介として各
医局員が教授や先輩たちの若い頃の写真を映し出す

などの演出で大いに盛り上がることができました。

最後にご後援をいただきました江戸川区歯科医師
会、東京都歯科衛生士会、母子衛生研究会、ご協賛
いただきました企業関係各位、大学から派遣され当
日お手伝いくださった先生方、準備から支えてくだ
りくださった関東地方会幹事会、そしてご参加いただき
ました多くの皆様がこの場をお借りして心より厚く御
礼申し上げます。



第40回関東地方会大会



記念祝賀会

日本小児歯科学会関東地方会 令和7年度総会

日時：令和7年10月5日（日）9：30～ 場所：タワーホール船堀

◎総会次第

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| I. 開 会 | - 監査報告 |
| II. 会長挨拶 | - 令和7年度事業計画案承認の件 |
| III. 議長選出 | - 令和7年度予算案承認の件 |
| IV. 報告事項 | - 次期大会（第41回大会）開催案承認の件 |
| 令和6年度事業概況報告 | - 令和8・9年度日本小児歯科学会関東地方会
会長承認の件 |
| V. 議案 | - その他 |
| - 令和6年度事業承認の件 | VI. 閉 会 |
| - 令和6年度会計決算承認の件 | |

◎令和6年度事業報告（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・幹事会開催
 令和6年4月24日, 6月19日(Web), 9月11日,
 11月13日, 令和7年2月12日(Web) (計5回開催) ・日本小児歯科学会第39回関東地方会大会および
 令和6年度総会
 令和6年10月6日（東京都・府中市） ・モニター会議
 令和6年10月6日（東京都・府中市） ・関東9大学小児歯科学講座・分野との懇談会 | <ul style="list-style-type: none"> 令和7年1月27日開催（お茶の水・会議室ワイム） ・公益社団法人日本小児歯科学会 理事会出席
 第274回 令和6年10月2日（Web）
 第275回 令和6年12月1日（Web）
 第276回 令和6年3月2日（Web）
 第277回 令和7年5月28日（朱鷺メッセ：
 第63回日本小児歯科学会）
 第278回 令和7年9月7日（Web） ・会報第39号発行（令和7年2月28日発行） ・関東地方会ホームページの運用および更新 |
|--|--|

令和6年度日本小児歯科学会関東地方会・会計決算報告

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

科目		決算額（円）	備考
I 収入の部	会費収入	入会金	0
		会費収入	0
		賛助会費収入	0
	事業収入	大会収入	5,256,006
		広告収入	88,000
大会補助金		350,000	
寄付金収入	寄付金収入	7,324,165	
雑収入	受取利息	0	
	雑収入	0	
当期収入合計 (A)		13,018,171	
II 支出の部	事業費	会誌刊行費	787,410
		大会補助金	350,000
		大会事業費	4,531,786
		公開講座費	0
	管理費	各種委員会費	26,670
		幹事会費	651,540
		事務費	6,600
	ホームページ運用費	373,054	
特別支出	寄付金支出	6,291,111	
予備費	予備費	0	
当期支出合計 (B)		13,018,171	
当期収支差額 (A) - (B)		0	

事業ならびに会計監査報告

令和6年度の事業及び決裁書類・会計書類等の閲覧および照合を行いました。その結果、正しく遂行されたことを証します。

令和7年9月10日

監事 高野 博子
監事 諸星 孝夫

◎令和7年度事業計画案（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

- ・幹事会および4役会の開催
- ・公益社団法人日本小児歯科学会 関連事業への協力
- ・日本小児歯科学会 第40回関東地方会大会および令和7年度総会の開催
- ・モニター会議の開催
- ・関東9大学小児歯科学講座・分野との懇談会の開催
- ・会報（第40号）の発行
- ・関東地方会ホームページの運用
- ・小児科との連携・協働
- ・日本小児歯科学会 各地方会および他学会との交流
- ・日本小児歯科学会 第41回関東地方会大会および
- 令和8年度総会の準備
- ・新規事業の立ち上げ（歯科衛生士を対象にしたラウンドディスカッション、会員向けセミナー）
- ・地区小児歯科標榜医への啓発
- ・ジョイント3への参画（公益社団法人日本小児歯科学会関東地方会、口腔衛生関東地方研究会、公益社団法人日本障害者歯科学会）
- ・委員会の開催（ジョイント3委員会、歯科衛生士委員会、モニター委員会、広報委員会、学術委員会）
- ・その他、目的を達成するための活動

令和7年度日本小児歯科学会関東地方会・予算案

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

科目		予算額（円）	備考
I 収入の部	事業収入	大会収入	5,800,000
		広告収入	100,000
	寄付金収入	寄付金収入	8,441,611
	雑収入	受取利息 雑収入	0 0
当期収入合計（A）		14,341,611	
II 支出の部	事業費	会誌刊行費	900,000
		大会補助金	350,000
		大会事業費	5,800,000
		公開講座費	600,000
	管理費	会員向け講演会費	1,000,000
		各種委員会費	500,000
		幹事会費	600,000
		事務費	35,000
ホームページ運用費	300,000		
特別支出	寄付金支出	4,211,611	
予備費	予備費	45,000	
当期支出合計（B）		14,341,611	
当期収支差額（A）-（B）		0	

◎会員動向

上段：2026年1月6日現在 下段：2025年1月6日現在（名）

	正会員	準会員	学生会員	名誉会員	賛助会員	単年度会員	会員数合計	専門医 指導医	専門医 (指導医を含む)	認定医	認定歯科 衛生士
茨城県	71	9	0	0	0	0	80	1	12	1	2
	77	9	0	0	0	0	86	1	11	1	2
栃木県	35	2	0	0	0	0	37	0	3	0	0
	37	2	0	0	0	0	39	0	3	0	0
群馬県	49	2	0	0	0	1	52	0	6	1	0
	49	2	0	0	0	0	51	0	5	0	0
埼玉県	247	32	0	0	0	0	279	8	50	6	7
	246	30	0	0	0	0	276	8	49	6	8
千葉県	215	23	1	5	1	3	248	13	46	2	13
	215	20	0	5	1	0	241	14	48	2	11
東京都	851	100	0	5	25	7	988	41	216	25	25
	848	100	0	7	25	2	982	46	217	22	8
神奈川県	318	45	1	2	0	5	371	17	76	10	13
	322	52	0	1	0	0	375	17	78	9	12
山梨県	19	1	1	0	0	0	21	0	0	0	0
	17	1	0	0	0	0	18	0	0	0	0
合計	1,805	214	3	12	26	16	2,076	80	409	45	60
	1,811	216	0	13	26	2	2,068	86	411	40	41

委員会報告

★ジョイント4委員会

委員長：権 暁成

委員：中村佐和子, 小平裕恵, 西村美樹, 藤岡万里

ジョイント4委員会は日本小児歯科学会（日本小児歯科学会関東地方会）、日本口腔衛生学会（口腔衛生関東地方研究会）、日本障害者歯科学会の3学会が2001年に立ち上げたもので子育ての支援、小児の口腔保健などに目を向け、これまでに多くのテーマについてワークショップや講演を行って参りました。2011年からは日本歯科衛生学会も加わり、4学会の共催となり、委員会名もジョイント3からジョイント4へ変更し活動して参りましたが、本年度より3学会（日本小児歯科学会、日本障害者歯科学会、日本口腔衛生学会）での活動に戻りました。

本年度のジョイント3は7年ぶりの対面での開催となり、2026年2月22日（日）に昭和医科大学旗の台キャンパスにて、メインテーマを『5歳児健診と歯科保健』とし、基調講演では社会福祉法人太陽会安房地域医療センター小児科部長 市河茂樹先生、シンポジウムでは内海明美先生、小澤佐和先生、篠原香織先生にご登壇いただきました。また、今回は

新しい試みとして口腔衛生関東地方研究会との合同開催となり、多くの先生方にご参加いただきました。

今後も関連団体との連携を図り、日常臨床における明日から役立つ情報発信、診療室、大学、行政機関などさまざまな職場の歯科医師、歯科衛生士、その他職種の方々との交流の場としての活動を継続し、社会に広く情報発信していきたいと考えております。

★モニター委員会

委員長：保田将史

委員：富永真澄, 小方清和, 三井園子, 雨宮妃香莉

モニター委員会は、会員の皆様から関東地方会の会務や活動について幅広くご意見を伺い、今後の事業に反映させることを目的として設置されています。委員会では毎年モニター会議を開催し、地域診療所勤務歯科医師、開業歯科医師、大学病院・病院歯科勤務歯科医師、そして歯科衛生士の計30名のモニターから貴重なご意見をいただいています。これにより、各地域の現状や課題への理解が深まり、地方会の活動に活かされることが期待されています。さらに、地方会大会運営に関するご意見も賜り、次年度以降の改善に役立てています。

令和7年度のモニター会議は、第40回関東地方会大会の昼休みに対面形式で行われ、多くのご意見やご報告が寄せられました(写真)。大学病院の先生方からは、近年外国人患者が増加しており、通訳や翻訳機を活用しているものの、文化や常識の違いから対応に苦慮する事例が報告されました。また、依然として非協力児や多数歯う蝕への対応が外来診療の主訴となっていることも指摘されました。

病院歯科の先生方からは、小児医療を柱としつつも、収益の多くを周産期医療に依存している現状が報告され、両者の連携強化の必要性が示されました。さらに、医療的ケア児への対応として、小児期から成人期への円滑な移行が課題となっていることも報告されました。小児歯科学会においても、歯科における移行期支援に関するデータはまだ少なく、他施設の取り組みから学びたいとの意見が寄せられました。

地域の先生方からは、外国人患者が増加し、半数を占める地区もあることが報告されました。言葉の壁を乗り越えるため翻訳ツールや絵カードを用いて対応しているものの、誤解により治療が中止となる事例もあり、情報伝達のさらなる工夫が求められているとの指摘がありました。また、地域の口腔保健センターでは、健常児の非協力的な症例が障害児診療を圧迫しており、健常児を一般歯科へ紹介する仕組みの構築が模索されています。さらに、外来診療においては、口腔内の状況が非常に良好な子どもと多数歯う蝕を抱える子どもに二極化しているとの報告もありました。

モニター委員会では、会議を通じていただいたご意見やご要望を真摯に検討し、開かれた地方会を目指して会務や活動に反映させてまいります。関東地方会は、会員の皆様から寄せられたご意見をもとに、より実効性のある施策を講じるとともに、地域の医療提供体制を強化する取り組みを進めてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



★広報委員会

委員長：山崎 優

委員：敦賀佐和, 塩野康裕, 三木崇裕, 権 暁成,
長弘茂樹

広報委員会は会員や企業へ情報を提供し、会員への情報共有、学会のスムーズな運営をサポートしています。

主な広報委員会の活動を4つにまとめました。

1. 広報誌の発刊

今回発行される会報誌もカラー印刷で、項目を追加した内容となっております。会員への発送物は以前は広報誌と学会抄録集で年に2回でしたが、令和6年の学会から抄録集が印刷されずホームページからのダウンロードとなりました関係で、会員への発送は会報誌のみとなりました。そのため、会員の方に知っていただきたい内容を充実させましたので、お読みいただければと思います。また、会報誌は下記関東地方会ホームページからもダウンロードができるよう設定しておりますので、会員の方は2020年からの会報誌も含めていつでも読むことが可能です。

2. 関東地方会 Facebook の充実

ホームページはページのレイアウト等があり、更新に時間がかかる場合があります。その際は、Facebookにて早く簡単に情報を提供する予定です。

Facebook を使用している先生方はぜひ日本小児歯科学会関東地方会 Facebook のシェア、フォローをお願いします。また、関東地方会へのご意見、Facebook やホームページに載せてほしい内容等ありましたら、ご意見をいただければと思います。

日本小児歯科学会関東地方会 Facebook



3. 関東地方会ホームページ

エラーが起きていた学会ホームページが令和7年4月にリニューアルしました。一般の皆様へ小児歯科関係のお知らせや専門医制度に関する告知、関東地方会の事業計画、役員、会員数や会則等、現在の関東地方会の状況から、過去の会報誌、最新学会情報など、会員に必要な情報を随時更新していく予定です。ホームページをお気に入り登録していただき、時々アクセスしていただければと思います。パソコン、スマホのどちらからでも見ることが可能です。

日本小児歯科学会関東地方会ホームページ



4. 小児科と小児歯科の合同セミナー案内

2年に一度開催の小児科と小児歯科の合同セミナーを令和7年度に開催予定です。こちらは詳細が決定しましたら、関東地方会ホームページに掲載します。前回は1,000人を超える視聴がありました。医師、歯科医師、一般の方にもわかりやすいセミナーを開催したいと考えています。また、関東地方会が開催するセミナーをご案内する予定です。

★学術委員会

委員長：岩下 智

委員：熊澤海道、塩野康裕、歸山えりか、藤岡万里

学術委員会は関東地方会大会での学術的な企画運営の協力とともに、子どもたちの健やかな発育を考える学会・団体と広く交流を図っていくことをめざしています。こうして子どもたちのためにできる活動を継続して行って、社会に広く情報発信していきたいと考えています。

東京小児科医会との共催セミナーはコロナ禍で中断していましたが、2023年に再開され、現在今年度の開催にむけて小児科医会と準備を進めております。

このほか金沢での第72回日本小児保健協会学術

集会では、これまでの小児科医会との共催セミナーの内容を集約して、社会への情報発信の方法や内容などを検証して今後の課題などについてポスター発表を行いました(図)。

令和8年度の保険改定では口腔機能がよりクローズアップされると考えられていますので、小児の口腔機能発達不全症の対応などについて会員や社会への啓発活動が必要と考えています。

東京小児科医会と日本小児歯科学会関東地方会の共催事業について

～「じょうぶな歯とじょうぶな体」のセミナー～

○権 唯成¹⁾、高野博子¹⁾、藤岡万里¹⁾、小方清和¹⁾、高橋康男¹⁾、歸山えりか¹⁾、浜野美幸¹⁾、豊川達記²⁾、神川 晃²⁾、辻祐一郎²⁾、秋山千枝子²⁾、塙 佳生²⁾

1) 日本小児歯科学会 関東地方会 2) 東京小児科医会

目的
東京小児科医会と日本小児歯科学会関東地方会は、小児科と小児歯科という専門領域を超えてコラボレーションし、適切な情報を広く周知することを目的とする。市民の方を対象とした公開セミナーを実施してきた。2013年から計4回実施した「じょうぶな歯とじょうぶな体」のセミナーについて、これまでの活動を報告するとともに、開催方法や内容についての問題点を検証する。

開催方法
主催：東京小児科医会と日本小児歯科学会関東地方会が交互に担当。
開催方法：第1回～第3回は対面で開催し、第4回はオンライン(オンデマンド)で開催した。
開催テーマ：毎回テーマを決定。
講演内容：テーマに合わせた内容について、小児科・小児歯科から1講演を行い、さらに第1回から第3回まではゲスト講演者を依頼した。
対象：市民(年齢・職種問わず)

セミナー概要
右①～④は各回のセミナー案内ポスターを示す。全セミナーを通じての大きなテーマは「じょうぶな歯とじょうぶな体」とした。
第1回①は、じょうぶな歯と体を作るために大事なことから、小児科は栄養、小児歯科はむし歯予防をテーマにし、ゲスト講演は子育てについての講演を依頼した。
第2回②は、企画準備の段階で、市民の方にかかりつけ医の重要性を周知することが大切だという意見から、「小児科と小児歯科の受診のしかた」をテーマにし、ゲスト講演では、じょうぶな体のつくり方についての講演を依頼した。
第3回③④は、小児科と小児歯科のエビデンスに基づいた正しい情報を周知することを目的とし、第3回のテーマは、「子どもを元気に育てる秘訣」とし、ゲスト講演者にはテーマに合わせた講演を依頼した。

考察
第1回から第3回は対面開催で100～200名の参加であった。第4回はオンライン開催で500名超の参加であった。
これらの準備の段階で、小児科医会と小児歯科学会の間でコミュニケーションをとることは、小児科と小児歯科の課題や取り組みの相互理解の機会となり、セミナーのテーマに活かすことができた。また、参加者のアンケート調査結果を次のセミナーのテーマに活かすこともできた。第2回の参加者アンケート結果より、子育てに悩む保護者が、ネットの医療情報に翻弄されていることが判明したため、第3回は「正しい情報発信」を主軸として開催内容を決めるに至った。
その後、コロナ感染症拡大により対面開催が困難になったが、第4回はコロナの規制が緩和された時期の復帰第一弾としてオンライン開催としたところ、参加者が増加した。これは、配信期間の長さや期間中いつでもどこでも繰り返し視聴できる手軽さが、ネットを日常的に活用する子育て世代にとってアクセスしやすいことといえるのではないかと考える。また子どもと一緒に参加できるようなプログラムも準備したため、親子での視聴も多くあったことは大変良かった。
オンライン開催は、対面開催と比較して、臨場感や意見交換がなく、内容が視聴者の記憶にどれだけ残るのかが疑問であるが、今後も情報を発信するだけの一方通行の開催にならないような開催方法や内容にしたいと考えている。
参加した子育て世代の保護者や医療関係者からは、「小児科と小児歯科のコラボが良かった」「子育てに大変役立った」「子どもを健康に育てる秘訣を教えてください」「機会があればまた参加したい」等の声が寄せられた。これらの意見を参考に、その時代に合った課題を検討していきたい。

結論
小児科と小児歯科が子どものWell-Beingを目指して一緒に活動することは非常に有意義だと考え、子どもたちそして保護者に役立つ良い情報発信を行い、主催者と参加者双方に実りある活動を継続していくことが重要だと考える。

第72回日本小児保健協会学術集会でのポスター発表

今後も地方大会で認定医セミナーを開催してゆく方針とのことでした。荻部教授と朝田教授からは、第64回日本小児歯科学会大会の準備状況について報告がありました。多数の企業様に協賛をいただいております。演題登録についても今後増加が見込まれるとのことでした。懇親会をはじめとした様々な企画も準備中とのことでした。星野教授からは、第66回日本小児歯科学会大会の開催概要と関連学会のお知らせがありました。第66回大会は埼玉県のソニックシティで開催を予定し、2028年5月10日から12日の間で企画を進行中とのことでした。また2026年10月に川越で開催される日本小児口腔外科学会大会についてもご案内いただきました。

「関東地方会の動き」では、高橋幹事長より関東地方会会員動向、令和7年度役員、令和7年度事業概況報告および令和8年度事業計画案について、次に令和8年度予算案の報告が長弘茂樹会計よりありました。各委員会の活動については、ジョイント4委員会、モニター委員会、広報委員会、学術委員会、および歯科衛生士委員会の各担当幹事より報告がありました。また藤岡万里大会長より第40回関東地方会大会・総会について、第41回関東地方会大会・総会の準備状況について富永真澄大会長より、それぞれ報告がありました。第41回大会では新企画として、大学医局員によるパネルディスカッションを企画しており、9大学の先生方への協力要請があり

ました。

「各講座・分野からのご意見・ご要望」では、まず星野教授から埼玉県小児保健協会の活動について情報提供がありました。船津教授からは、学会誌への論文投稿について協力依頼がありました。仲井教授からは、Web会議の活用のご提案がありました。また、モニター会議についてと歯科衛生士教育の内容に関するご意見をいただきました。清水教授からは、認定医制度を開業医の先生方に広く周知するようご依頼がありました。新谷教授からは、理事長の任期満了に向けたご挨拶をいただきました。菊入教授からは、ハンズオンセミナー開催についてのご報告をいただきました。荻部教授からは、従来地方大会で企画されていた「若き研究者の集い」についてのご質問をいただきました。岩本教授からは、将来的な人材確保のために学会が連携し情報共有を行う重要性についてお話をいただきました。朝田教授からは、今後の課題として、広範囲う蝕についての情報収集、口腔機能発達不全症についての歯科衛生士教育、可撤保隙装置適応拡大について、学会として議論を継続してほしいとのご要望をいただきました。

最後に小方清和副会長から、ご出席いただいた9大学の先生方へ感謝の言葉と閉会のご挨拶で懇談会は終了となりました。



懇談会の様子

日本小児歯科学会関東地方会祝賀パーティーが開催されました

日本小児歯科学会関東地方会幹事長 高橋 康男

令和7年4月6日（日）、「2025年春 日本小児歯科学会関東地方会祝賀パーティー」が渋谷エクセルホテル東急6FプラネッツルームAにて11時より盛大に開催されました。

年度始めの第一日曜日の忙しい中でしたが、招待幹事会旧役員5名、顧問5名そして現役幹事19名が参加しました。

当幹事会顧問である井上雄温先生が昨年の秋の叙勲で「瑞宝双光章」を受章、監事の高野博子先生と顧問の田中英一先生が「日本小児歯科学会学会賞」を受賞したことのお祝いの会でした。関東地方会幹事会としても大変喜ばしいことであり、本会は先生方の長年の功績を共に喜び、お祝いをしたく浜野会長らが発起人となり、企画された祝賀パーティーでした。

当日は幹事会旧役員の方も参加され、昔話に花が咲いたテーブルも多く見受けられました。また、本パーティー企画にあたり、当初それぞれの先生方や既に違った会等で祝賀会があったようで、開催の有無については賛否両論がありました。しかし、今回、関東地方会幹事会の先生だけ、いわゆる身内だけの祝賀パーティーに喜びもひとしおだったとのお言葉をいただき、企画側としてもその達成感はこの上ないものとなりました。

楽しいひと時もあっという間に過ぎ去り、祝賀パーティーは終了となりました。受賞されました先生方の更なるご活躍を祈念いたします。



左から井上雄温先生、高野博子先生、田中英一先生





40回大会で実施した新規事業に向けたアンケート調査の結果について

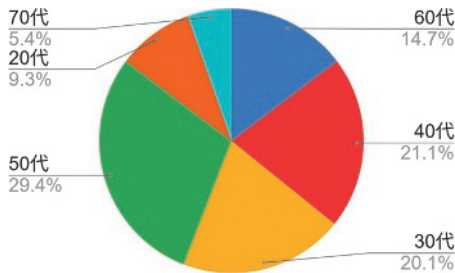
日本小児歯科学会関東地方会 会計 長弘 茂樹

日本小児歯科学会の全6地方会のうち、関東地方会は最も所属人数が多い規模の大きな地方会です。運営の軸を担う幹事会では、他地方会にはない独自の取り組みとして、各委員会活動を精力的に行っています。また近年、幹事会には若い年代の幹事や歯科衛生士が新たに加わり、体制の充実が図られています。そのような関東地方会の特色を生かした新規事業を現在企画しております。

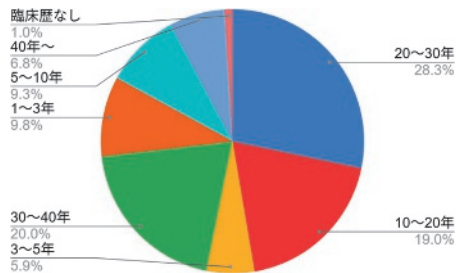
新規事業の企画にあたり、より参加者にとって有益な事業とするため、会員の皆様の「声」を伺うべく、第40回大会においてアンケート調査を実施いたしました。本アンケートは、会員の皆様が受講を希望するセミナーや講演内容、また日々の臨床で関心をお持ちのテーマを把握することを目的として行い、多職種を含む205名の方にご回答いただきました。ご協力いただいた皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本会報では、アンケート結果とともに、皆様の「声」を反映した新規事業の企画内容についてご紹介いたします。

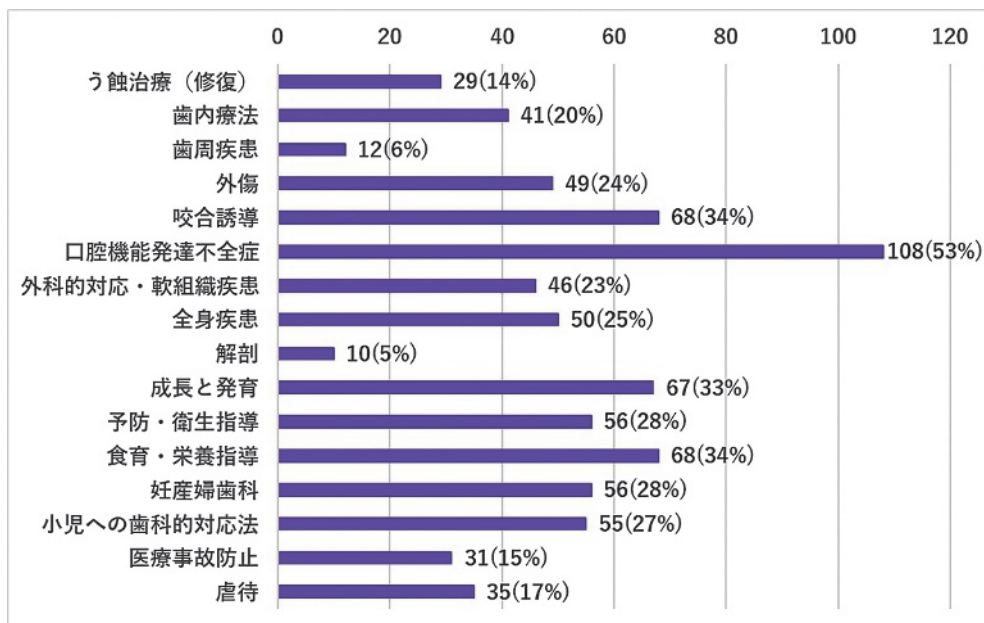
〈回答者情報：年齢〉



〈回答者情報：臨床歴〉



〈受講したいセミナー内容〉



受講したいセミナーのテーマとしては、トレンドともいえる「口腔機能発達不全症」に多くの票が集まりました。一方で、それ以外のテーマにも同等の票が集まり、幅広い内容のセミナーが求められていることが明らかとなりました。多様なテーマに応じた可変的かつ継続的な事業開催の必要性を感じました。またアンケートでは、「大学では現在どのような治療法が行われているか知りたい」「開業医歴が長いので、他の先生の治療法を知る機会が少ない」「学生時代に学んだ術式のままなので最新の治療法を学びたい」「今さら聞けない基本技術を習得したい」といった、クリニカルかつベーシックな内容へのニーズが多く寄せられました。

そこで現在、「大学医局員によるパネルディスカッション～小児歯科のチカラを再発見～」と題したセミナーの開催を企画しております。第1回は「乳歯の根管治療」をテーマとし、第41回大会内で開催予定です。本セミナーでは、パネリストとして9大学の医局の先生をお招きし、司会の進行のもと、普段の臨床で実践されている根管治療の使用器具や術式について、ディスカッション形式でお話を伺います。さらに会場からの質疑応答も積極的に取り入れ、よりライブ感のあるセミナーとする予定です。

また今後は開業医の先生にもご登壇いただき、幅広い視点から意見が交わせるよう企画をアップデートしてまいります。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



令和7年度モニター会議のまとめ

モニター委員会委員長 保田 将史

令和7年度モニター会議は、第40回関東地方会大会の昼休みに対面形式で開催され、多くの貴重なご意見・ご報告をいただきました。モニターの皆様から寄せられた内容には、会員の皆様にも共有すべき有益な情報が多数含まれております。

本紙では、個人が特定されない形で情報を整理し、紙面の都合上、会議内容を要約して掲載いたします。今後の診療および学会での活動の参考として、ぜひご覧ください。

1. 各診療機関の現状と課題について

【大学】

- ・大学病院と診療所で二人主治医制を導入し、地域連携の強化を進めている。
- ・主訴は、う蝕処置、対応困難児の治療、埋伏歯抜歯が中心である。
- ・医療的ケア児への対応では、かかりつけ医との協力体制の整備が進められている。
- ・外国人患者が増加し、文化的背景の違いによる混乱やコミュニケーションミスが発生。
- ・英語対応力向上に取り組む一方、英語以外の言語を必要とする患者も増えており、対応が課題となっている。
- ・小児歯科志望の若手歯科医師の定着が難しく、人材育成が重要課題。

【病院】

- ・小児医療部門は厳しい経営状況にあり、周産期医療との連携強化を進めながら収益改善を図っている。
- ・周産期・口唇口蓋裂患者への出産直後支援では心理的サポートを重視。
- ・全国的にも小児医療の維持が課題。
- ・障害者施設併設病院では成人障害者の歯科診療が増加。
- ・小児期から成人期への移行期支援を推進しているが課題も多く、他施設の取り組み共有を求める声がある。

【地域診療所】

- ・外国人患者が増加し、翻訳ツールや絵カードを用いて対応をしている。
- ・生後1か月児の早期受診が増加し、保険算定の課題が指摘されている。
- ・非協力児の紹介増加により口腔保健センターの診療

- ・ 枠が逼迫し、本来の障害児診療が困難になっている。
- ・ 移住者増加地域と少子化による小中一貫校化が進む地域が混在し、地域間で状況に差が生じている。
- ・ 非公式団体による誤情報の拡散や、小児歯科を標榜するファミリー歯科での不適切対応により、C3 症例など重症例が専門医へ流入しているとの報告があり、学会としての対応が求められた。

2. 学会・大会への要望と意見について

- ・ ポスター会場の動線は良好だが、企業セミナー会場の狭さが課題。
- ・ 当日登録やカードリーダー設置場所がわかりにくいとの指摘。

- ・ キャッシュレス・ペーパーレス化、QR 受付、PDF 抄録共有などデジタル化は概ね好評。
- ・ 一方で紙資料を求める声もあり、タイムテーブルの紙配布を希望する意見があった。
- ・ Peatix 運用は継続希望が多いが、現金支払い案内不足や重複登録が課題。
- ・ 学会には正しい情報発信、地方会活性化、舌下免疫療法や口腔機能発達不全症への指針整備が求められている。
- ・ 周産期テーマの大会構成や行動変容法の講演が評価された。
- ・ 長年の会員への年会費配慮、他職種への広報強化、若手育成支援の必要性が指摘された。



関東地方会新規事業 歯科衛生士研修会

歯科衛生士委員会委員長 島津 貴咲

関東地方会では、2026 年度 新規事業として歯科衛生士研修会を開催いたします。

主 旨：小児にかかわる歯科衛生士の患者指導の展開は、個々の成長発達、生活背景や食環境を把握することがとても大切です。保育者とのかかわり方や支援をする上で、「小児の口腔健康管理で、歯科衛生士がもう一歩踏み込んで工夫できることや伝えられることは何か」を考え情報共有を図ることで、明日からの臨床の現場に活かす機会となることを期待しています。

内 容：日本小児歯科学会認定歯科衛生士を2名輩出された荻原先生によるご講義の後、参加者全員でテーブルディスカッションを行い、歯科衛生士が発信していく視点や、患者の成長発達に合わせた保育者とのかかわり方について考え、グループ討議後の発表をもって共有していきます。

テーマ：保護者との対話で把握する子どもの口腔機能

講 師：荻原栄和先生（レオーネキッズデンタルクリニック 院長）

日 時：2026 年 4 月 19 日（日）13：00～15：00

場 所：日本歯科大学生命歯学部会議室（詳細は参加者に通知）

定員・対象：日本小児歯科学会所属の歯科衛生士 20 名

（1 施設 2 名まで参加可）

参加費：無料

企画・主催：日本小児歯科学会関東地方会歯科衛生士委員会

（島津貴咲、草間里織、三輪直子、小方清和、関 龍彦、西村美樹）



参加申し込みは、2026 年 3 月 6 日（金）12：00より関東地方会 HP で開始（Peatix 使用）

※歯科医師の見学も可能です。見学の方もお申し込みをお願いします。

〈日本小児歯科学会関東地方会〉
令和6～7年度 役員名簿

会 長	浜野 美幸		
副会長	小方 清和	藤岡 万里	
幹事長	高橋 康男		
会 計 長	長弘 茂樹		
幹 事	雨宮妃香莉	岩下 智	
	歸山えりか	草間 里織	
	熊澤 海道	小平 裕恵	
	権 暁成	塩野 康裕	
	島津 貴咲	関 龍彦	
	関口 五郎	敦賀 佐和	
	富永 真澄	中村佐和子	
	西村 美樹	三木 崇裕	
	三井 園子	三輪 直子	
	保田 将史	山崎 優	
監 事	高野 博子	諸星 孝夫	
顧 問	吉田 昊哲	井上美津子	
	井上 雄温	丸山進一郎	
	田中 英一	早川 龍	
ジョイント4委員会	権 暁成		
モニター委員会	保田 将史		
広報委員会	山崎 優		
学術委員会	岩下 智		
歯科衛生士委員会	島津 貴咲		

■編集後記

関東地方会会報 第40号をお読みいただきありがとうございます。節目の号となる今号も、多くの方々のご協力により無事発刊できましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

振り返れば、新型コロナウイルスの流行により対面での交流が制限された時期もありましたが、現在では地方大会も現地開催の熱気が完全に戻りつつあります。40号という長い歴史を積み重ねてこられたのは、会員の皆様のたゆまぬ研鑽と情熱があつてこそだと改めて実感しております。

本誌が、皆様の日常の臨床における一助となり、また会員相互の絆を深める一助となれば幸いです。今後とも本会報を温かく見守っていただければと存じます。

(三木崇裕記)



〈お知らせ〉

住所変更、姓変更は本会事務局では取り扱っておりません。
必ず(一財)口腔保健協会 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
TEL 03 (3947) 8891 (代) へお願い致します。

令和8(2026)年2月21日 印刷
令和8(2026)年2月28日 発行
発行者 浜野 美幸
発行所 日本小児歯科学会関東地方会 広報委員会
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
埼玉県立小児医療センター小児歯科
日本小児歯科学会関東地方会事務局

TEL 048-601-2200(代表)